



科学的介護がもたらす未来予想図

【施設名】ココファン坂戸
【発表者名】山内 悠生



1. 施設の概要



施設の概要

事業所名 (開設年月)	ココファン坂戸 (2021年 3月1日)
サービス種別	特定施設
所在地	埼玉県 坂戸市 山田町9-44
定員・ご利用者数 居室設定等	居室数：50戸 定員：60名
スタッフ体制	所長：1名 所長代理：1名 計画作成担当者：1名 生活相談員：3名 看護スタッフ：4名 事務：1名 ケアスタッフ：15名 計：26名
特徴・PR	閑静でスーパー・薬局などが近くにあり生活しやすい環境です。



外観写真

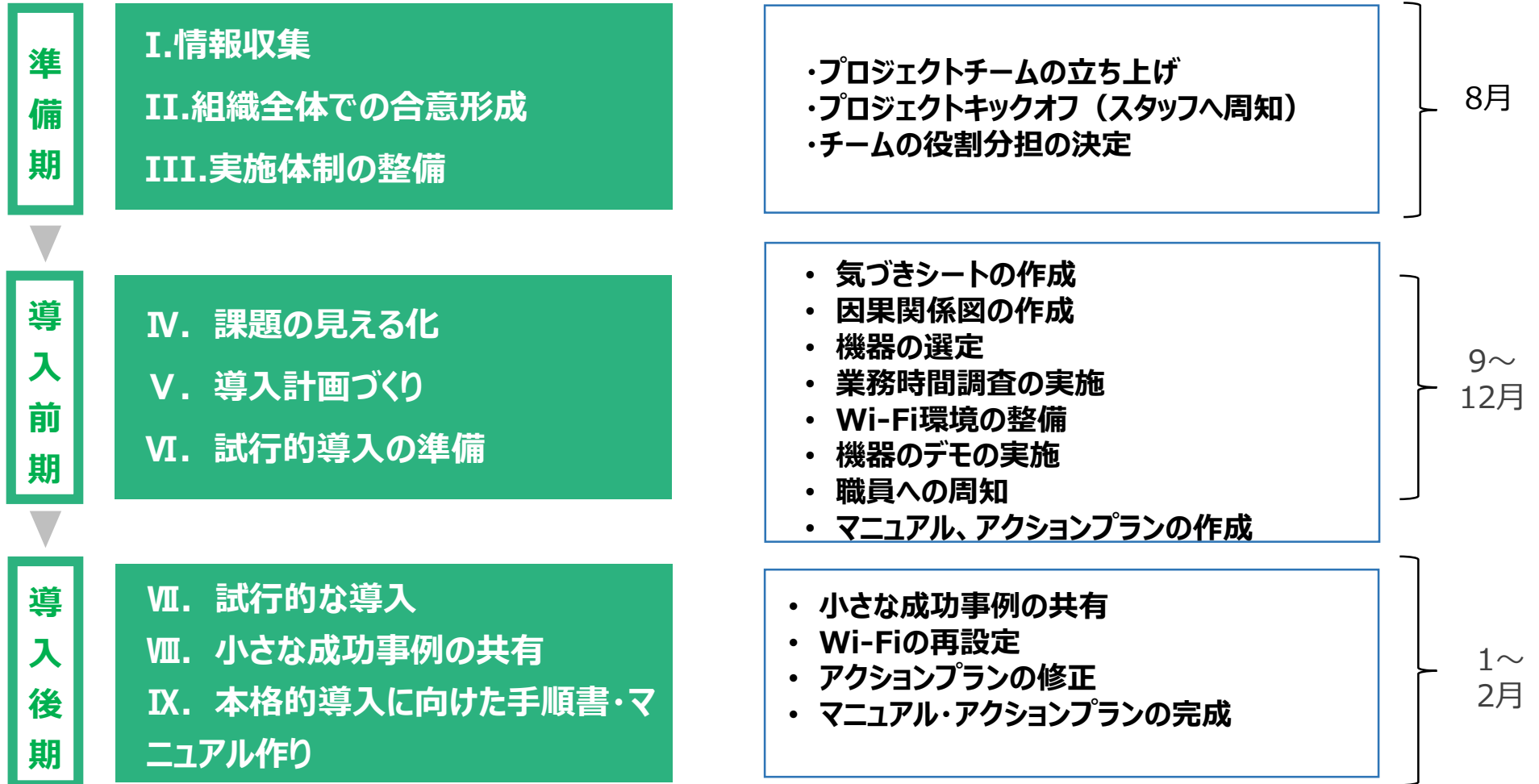


2. 取り組みの流れ

取り組み全体の流れ

9つのステップ

プロジェクトの流れ





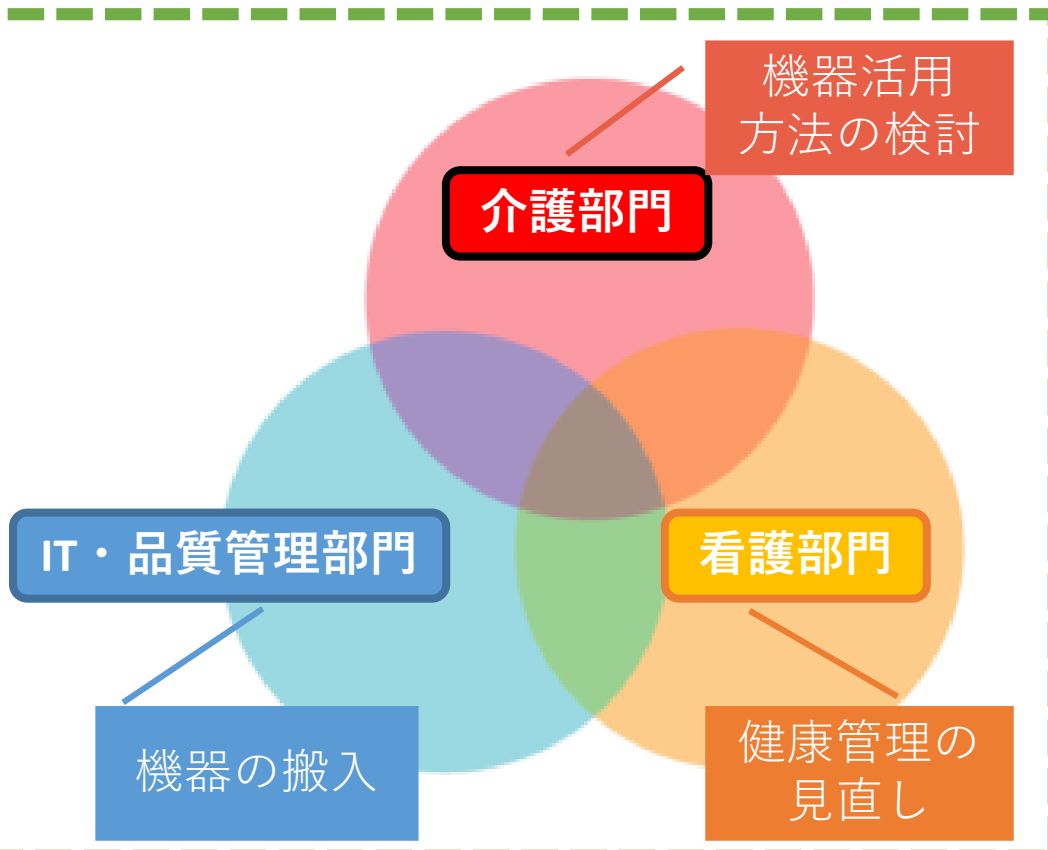
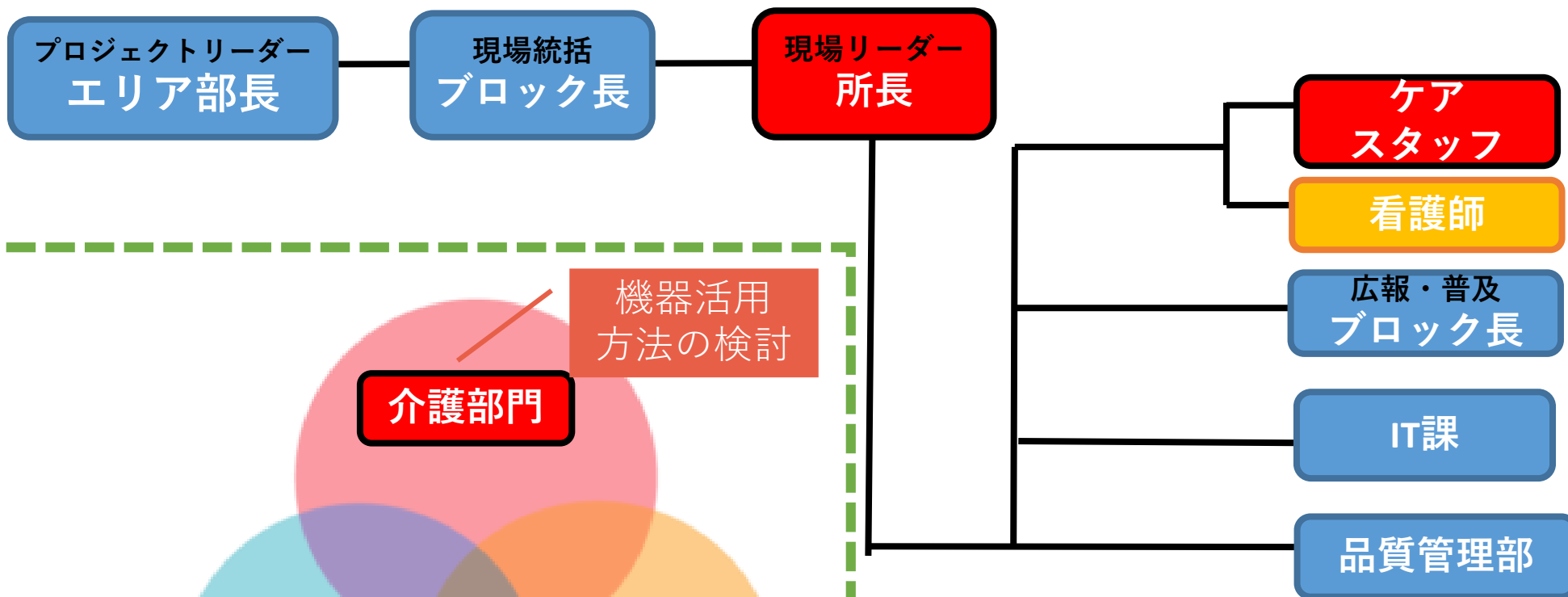
①プロジェクトチームの立ち上げ

②チームの役割分担の決定

③プロジェクトキックオフ(スタッフへ周知)



準備期：実施体制の整備②





準備期：組織全体の合意形成

ケアスタッフに向けてプロジェクトメンバーを中心に職員全体でキックオフを実施しました。

日時：8/17 16:00～16:30

場所：ココファン坂戸 食堂フロア

実施方法：集合形式＋オンライン

参加：本部長、ブロック長2名、所長、現場スタッフ

～取り組みの狙い～

- ①スマート介護事業の目的
- ②導入効果
- ③今後の展開





導入前期の流れ

① 気付きシートの集計

② 因果関係図の作成

③ 機器の選定

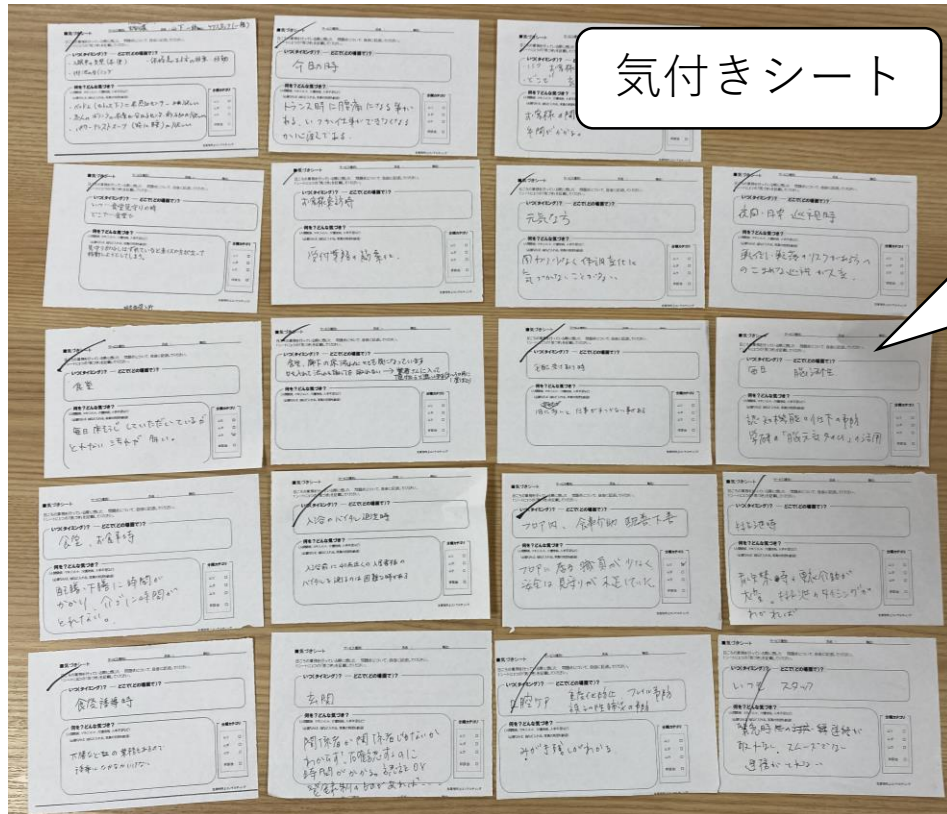
- ・ 業務時間調査の実施
- ・ Wi-Fi環境の整備

④ 職員への周知

⑤ マニュアル、アクションプランの作成



導入前期：ワークショップより



気づきシート

見えてきた問題点

- ・ スタッフ間のコミュニケーション
- ・ 組織体制について
- ・ お客様へのサービス提供について




因果関係図のワークショップ

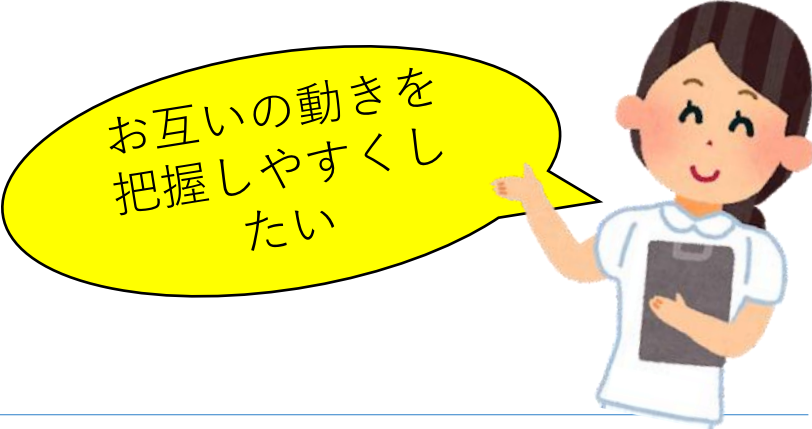


導入前期：因果関係図の作成で見た原因

自立支援重度化防止	介護を必要としない入居者の体調や生活サイクルが把握できない為、心身状況の変化に気づけない
業務効率化	スタッフの情報共有が不足し、 unnecessary 訪室や重複作業が見られる



元気な方には
より長く元気に
過ごして欲しい



お互いの動きを
把握しやすくし
たい



導入前期：導入計画づくり

課題

①介護を必要としない入居者の体調や生活サイクルが把握できない為、心身状況の変化に気づけない

②誰がどこにいるか分からない

課題に対する原因

ご入居者様の重度化防止
健康管理が困難

重複作業による
 unnecessary 訪室

結果

①の課題に対して・・・見守り機器の導入
②の課題に対して・・・連絡手段としてインカムの導入



導入前期：機器の選定

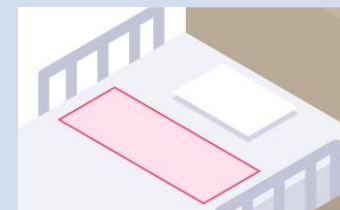
見守りセンサー

メリット

生活の様子や状態の把握ができれば、介護、医療の導入を進めることができ、ADLの維持やQOLの向上、早期の心身不調の察知・対応が可能になる

デメリット

お客様のプライバシーを侵してしまうのではないかと



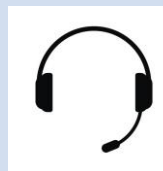
インカム

メリット

ハンズフリーで他スタッフと連携が図れる
他のスタッフの行動が把握しやすくなる

デメリット

周囲の会話をすべて拾ってしまう
長時間の着用は耳が痛くなる
防疫対策で耳にかけるものが多いためストレスになりやすい



導入前期：見守り機器の選定



準備期

導入前期

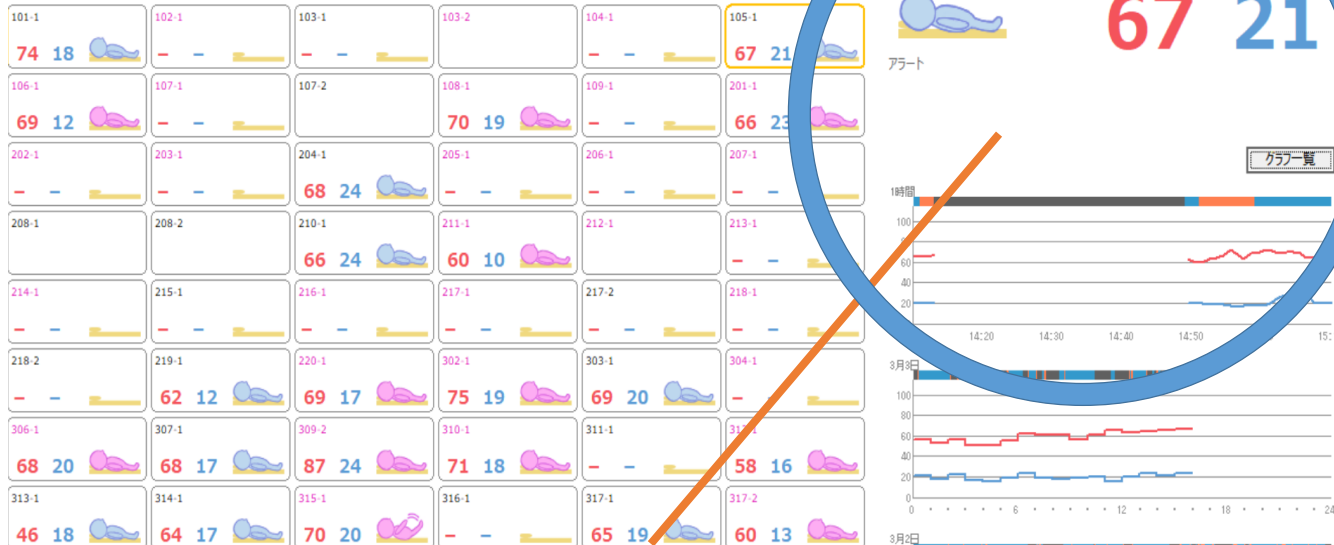
導入後期



HEALTHCARE
Implementation

安心ひつじモニター SW-100 Ver.3.2

3月3日(金) 15:11



選定条件




サ高住なのでお客様のプライベートになるべく干渉しないように見守りたい。

スマートホンに通知、
管理モニターでアラート確認

ベッドマットの下に敷いて使用するため、お客様の目につかない。
居室内に入らなくても、数値でお客様の状態が把握できる。



導入前期：インカムの選定

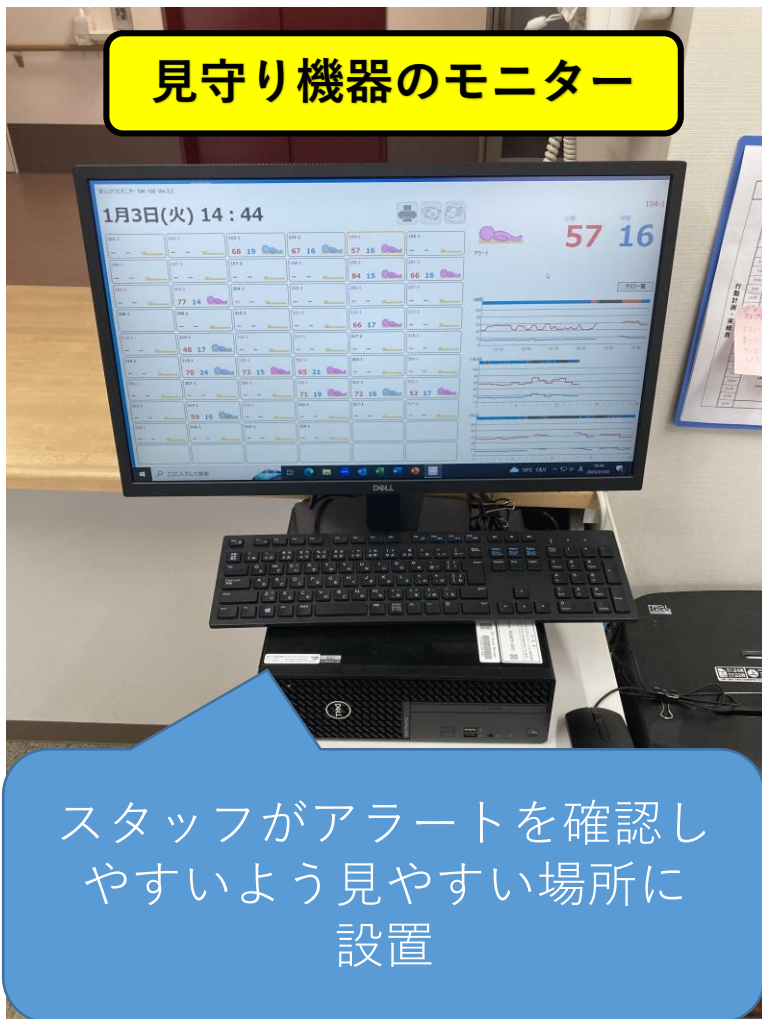
選定項目			
つけたときのストレス	×	×	○
フィット感	×	○	△
音の拾いやすさ	○	×	○
慣れ度合	×	○	×
周囲の音の聞こえやすさ	△	×	○

話し合いを重ねた結果、
介助時にご入居者様の声が聞き取りやすく
ハンズフリーでストレスなくつけられるものが必要との意見があり
【OPEN RUN PRO】に決定



導入前期：試験的な導入の準備（環境整備）

見守り機器のモニター



インカム

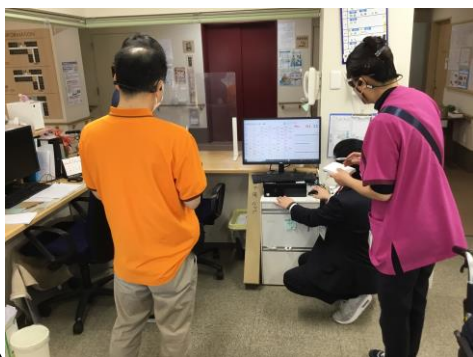




導入前期：試験的な導入の準備【デモンストレーション】

坂戸スタッフによる デモンストレーションの様子

見守り機器

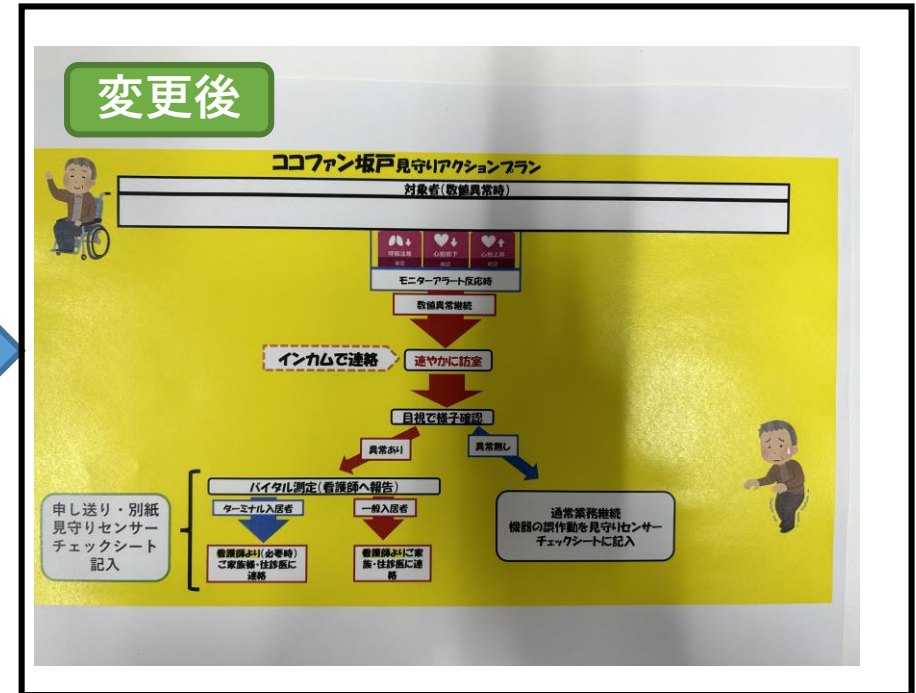
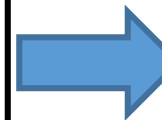
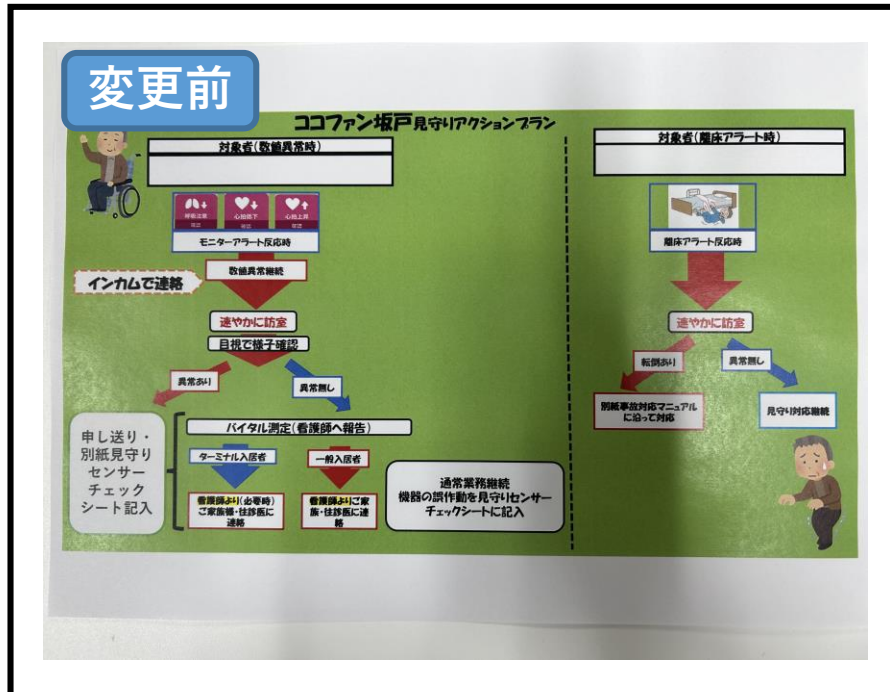


インカム





☆導入前期：苦労した点・工夫した点（見守り機器①）



健康管理 + 離床用

健康管理のみ



導入前期：苦勞した点・工夫した点（見守り機器②）

課題

- ① **介護を必要としない**入居者の体調や生活サイクルが把握できない為、心身状況の変化に気づけない

変更

介護を必要としない方だけではなかった・・・

課題

- ① **入居者全体**の体調や生活サイクルが把握できない為、心身状況の変化に気づけない

導入前期：苦勞した点・工夫した点（インカム①）

準備期

導入前期

導入後期



場面	起居・離床	排泄	見守りひつじアラート通知	食事朝・昼・夕	服薬	レク	機能訓練	来客
声掛け内容	(例) ○○さんの誘導に入ります。○階の方も声掛けに行きます。	(例) ○○さんの定時排泄（陰洗）に行きます。	(例) 【対応できる場合】 ○○が訪室しますので、一人で対応が困難な場合は応援依頼かけます。 【対応できない場合】アラート反応がありました。現在ケアに入っているため、どなたか対応できる方○○さんのお部屋へ状況確認をお願いします。	(例) ① ○○さんの誘導に行ってください。 (□□さんの誘導がまだ終わってなければ) お手すきの方がいれば□□さんの誘導の対応をお願いします。 ②○○さんの配膳/下膳に行きます。	(例) 【外出・外泊想定】 ○○さんのお渡し用のお薬の準備ができていないので、読み込んでセットして下さい。	(例) ①○○時からレクを開始しますので、利用者の方へ参加を呼び掛けて下さい ②別件対応中で放送ができていないので、どなたかお手すきの方は放送をお願いします。	(例) 看護師：体操の放送/入力ができていないので、お手すきの方は対応して頂けると助かります。	(例) ①○○さん、来客がありましたので1階玄関までお越しください。
備考	※一時的にセンサーになりますのでご了承下さい。							

プロジェクトメンバーを中心にインカムの場面を想定し活用表を作成



導入前期：苦労した点・工夫した点（インカム②）



ポイント①

個別でしっかりOJTを実施

スタッフへ周知するためマニュアルを事前に作成するも
基本的なことから載せて欲しいとのご意見あり。

見直し

読み手を想定し、読み手のレベルにあった内容・文体を意識して作成。
（電源・ログイン方法から）



①課題の検討

②課題に対する対策・改善事例

③アンケートの実施

④マニュアル・アクションプランの見直し

⑤職員への周知

導入後期：課題の検討 機器導入に関して困っていること

接続は出来ても
繋がらないときがある

入浴介助が多く
インカムを外して
いることが多い

インカムの使用が
あまり出来ていない

ナースコールを
取るだけで全体への発信
はほぼ使われていない

話すときに押す
スイッチが使いづらい
(排泄介助などで手が使え
ないときなど)

スタッフ間で浸透
していない

離れているときは繋がら
ないことが多いので、
用事がある人に直接
iPhoneで連絡した方が
早い

事務所以外の場所で
センサーが鳴っても
すぐに数値を確認
できない

モニターを見る機会がな
くあまり活用できない
(入浴介助に入っている
ことが多い)



導入後期：対策事例（見守り機器）

見守りセンサーチェックシート(両面)

日付	時間	利用者名	アラート内容	誤作動	訪室時の様子
12月4日	10:30	〇〇様	心拍 <input checked="" type="checkbox"/> (数値: 122 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/>	訪室時異常なし (頻脈の方)
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	
			心拍 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) 呼吸数 <input type="checkbox"/> (数値: 回/分) その他 <input type="checkbox"/> ()	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	

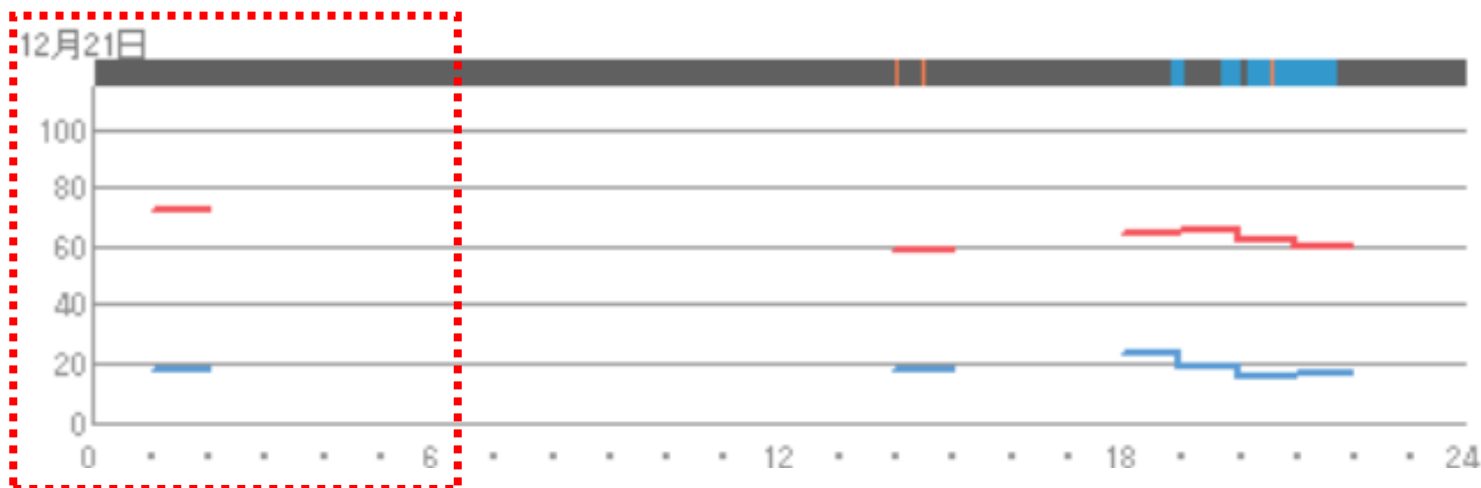
健康管理をしやすいするために
チェックシート作成

導入後期：成功事例の共有（見守り機器① Aさんの事例）

見守りセンサー（Aさん）

【導入前】

基本サービスでの介入はあったが、認知症状がかなり進行しているため、居室内での過ごし方が気になる方だった



【導入後】

昼夜逆転、ベッドではほぼ寝ていない事実が明らかに 

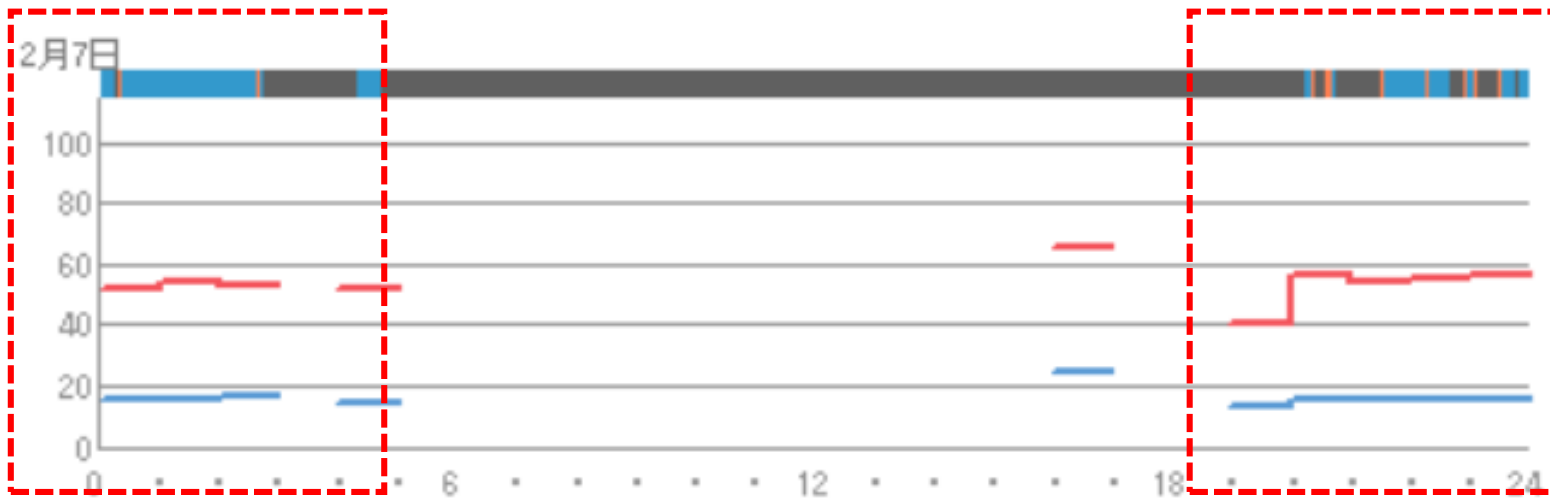
導入後期：成功事例の共有（見守り機器② Aさんの事例）

【介護】

- ①日中レクリエーションへの声掛け実施
- ②夜間巡回時ベッドへ横になって頂くよう声掛け実施

【看護】

夜間覚醒の為、訪問診療へご相談し就寝薬の時間を遅らせた

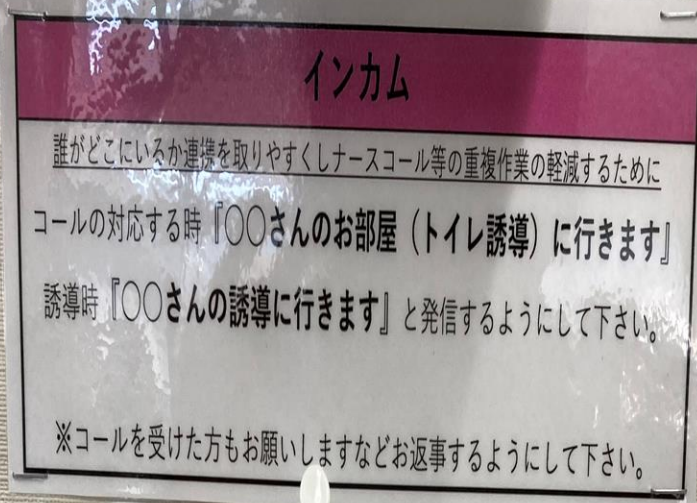


夜間帯 継続して睡眠がとれるようになった！！



導入後期：対策事例（インカム）

インカム



朝礼・夕礼だけでなく職員さんが意識できるように使用例の掲示

～事業所ルール～

- ①プロジェクトメンバーを中心にインカムの活用を浸透させる
- ②応用的な使い方はせず、基本的な使い方限定した
→インカムが聞こえたら、返答する
(プロジェクトメンバーが率先して使用する)

業務改善

導入前に比べスタッフの連携がよりスムーズになった

○転倒を発見した後インカムを使ってスタッフへ
応援要請をかけたところ応援に来てもらった。

成功体験は少ないですが、
まず意識を変えるところ
から定着に向けて取り組
んでいます。

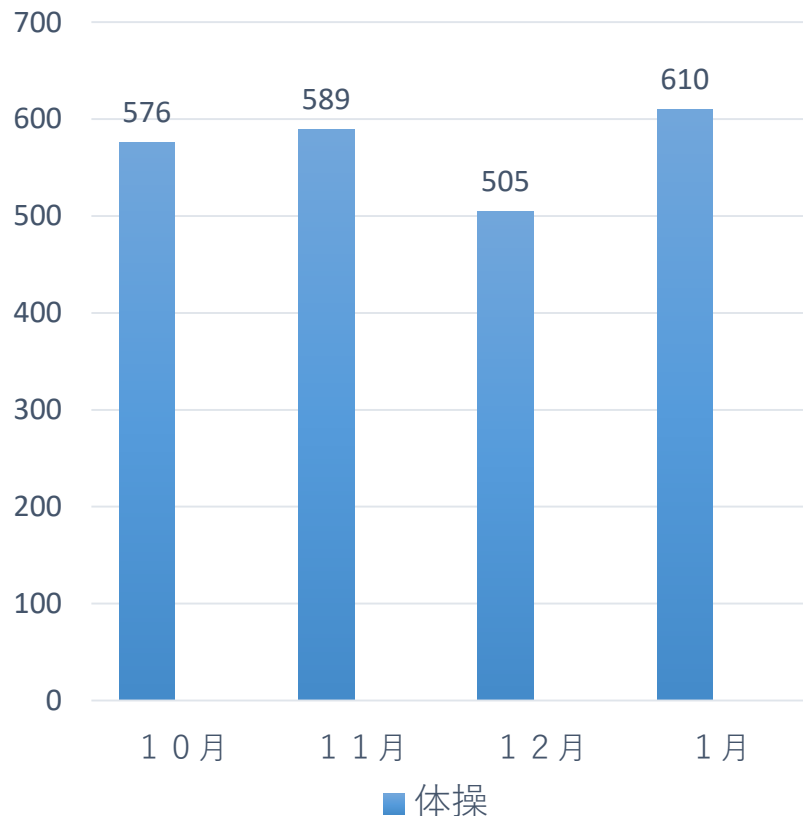




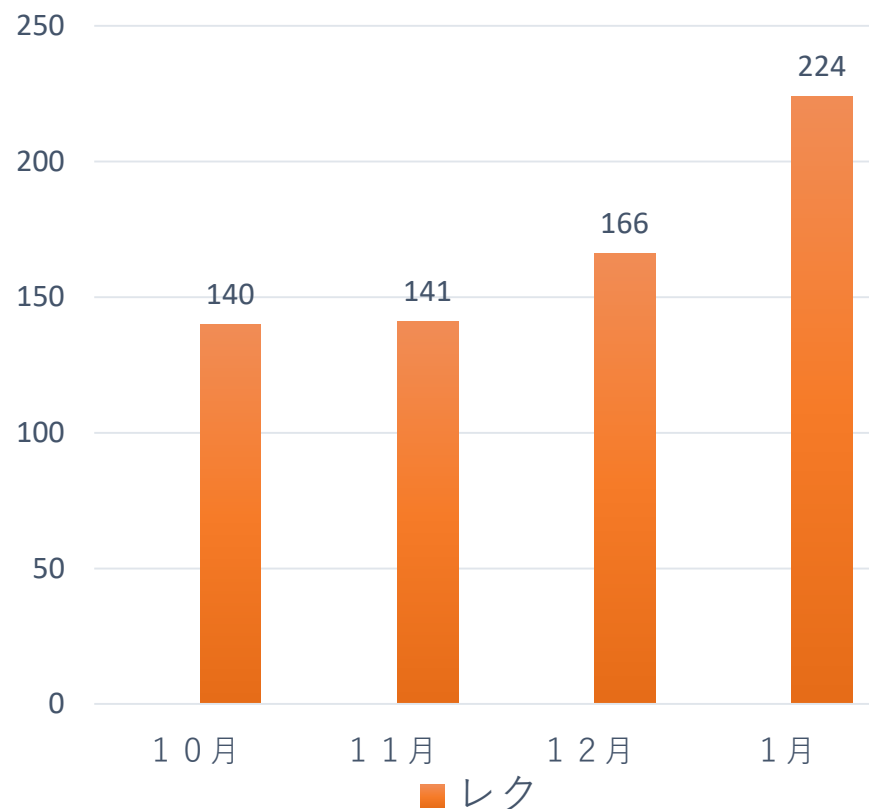
導入の成果

導入の成果：KPI比較（毎月のレク参加人数の増加）

体操参加表



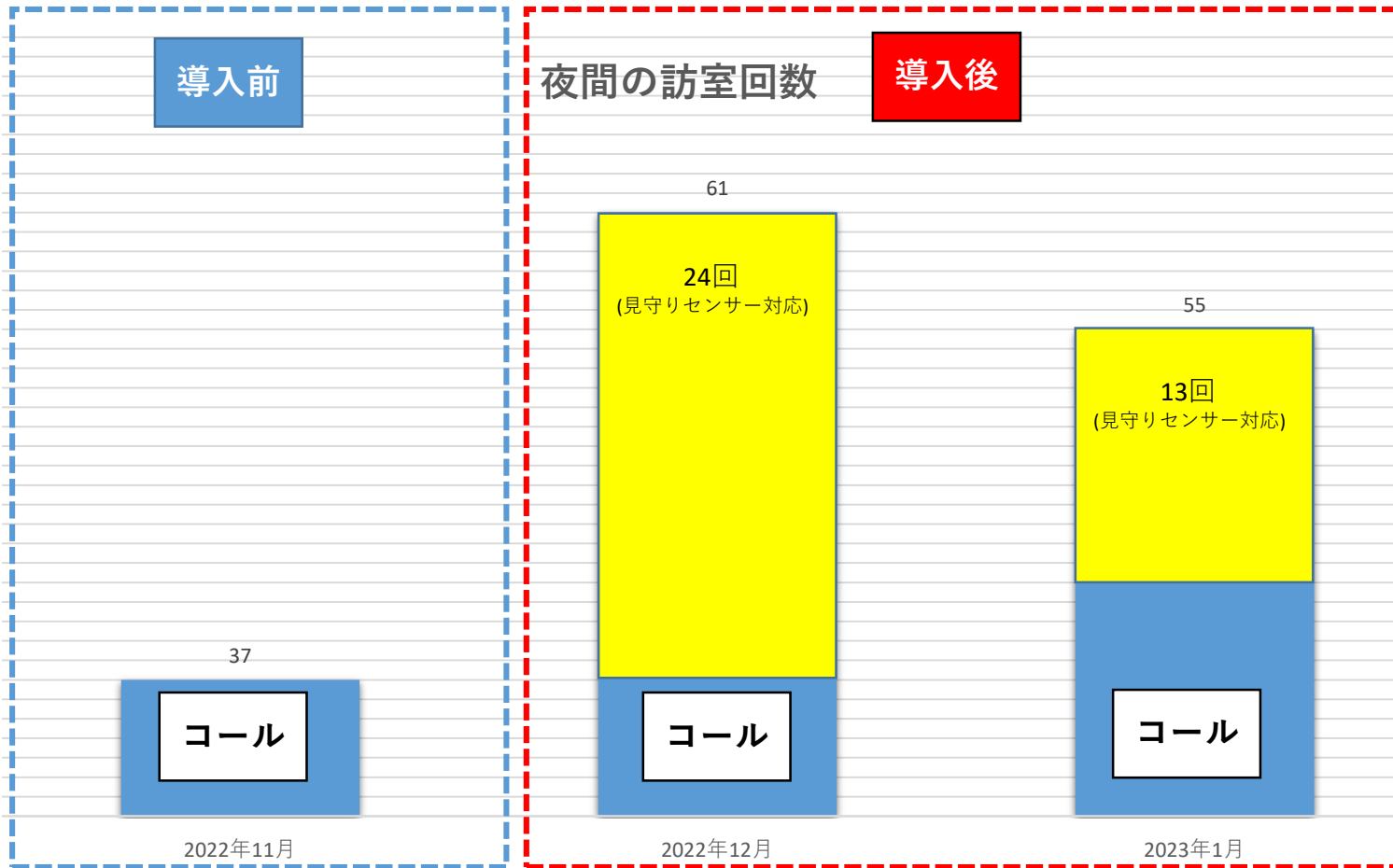
レク参加表



日中活動が少ない方へ声掛けを行い
体操34名、レク84名それぞれ参加者増↑



導入の成果：KPI比較（夜間の訪室回数）



導入前

ナースコールのみ
(火曜日集計、17時
～翌9時)

導入後

ナースコール+見守
りセンサー(火曜日
集計、17時～翌9時)

結果 見守り機器導入により訪室回数は増えたが、
本来必要なサービスが見える化した



HEALTHCARE
Implementation

まとめ

まとめ：上長コメント

今回本社よりバックアップさせていただきました。

学研ココファンは全国に約200棟・10,000室のサービス付き高齢者向け住宅を運営する会社です。

このプロジェクトを通して感じたことは、「**現場が主体となる**」ということです。

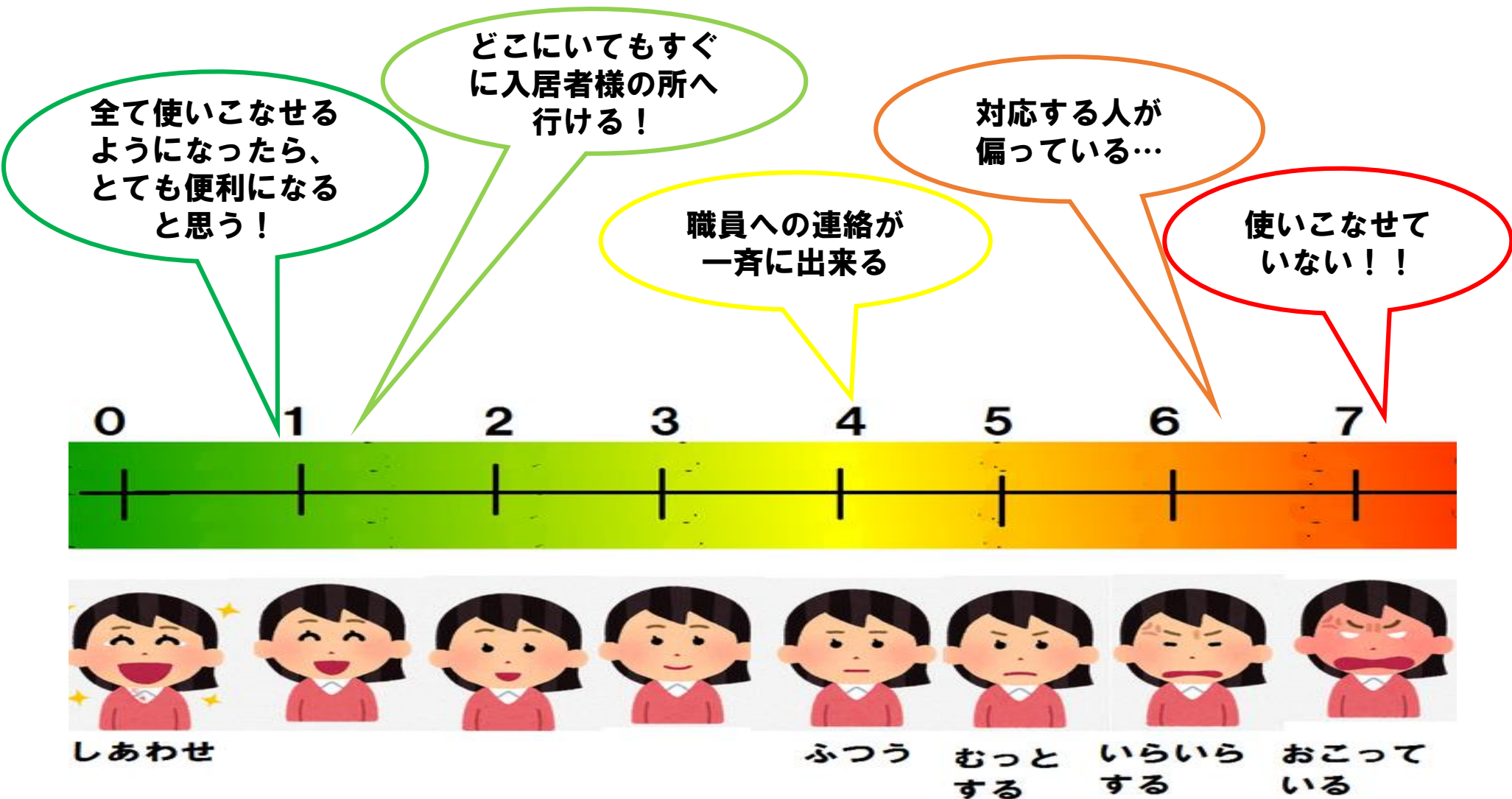
大きな組織になると本部側の意見が強くなり、一番わかっているはずの現場の意見が希薄となってしまい、なかなかプロジェクトが前に進まないということがたびたび起こりました。そんな中、PJメンバーが目標や役割・課題を明確にし、プロジェクトを推進してくれました。

そのおかげで少しずつではありますが、現場主体となり、現場スタッフで作るプロジェクトに変容してきました。そして、メンバーの成長を感じられたことがうれしく思います。

弊社は今後も介護業界のリーディングカンパニーとして「**介護ロボット・ICT普及**」という社会的使命を十分に理解し、企業理念でもある「**すべての人が心ゆたかに生きることを願い今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します。**」を願って、この取り組みを今後も継続していきます。

学研ココファン 赤松 真悟

まとめ：【スタッフからの導入後アンケート結果】



まとめ：【プロジェクトを通して**成功**から得た学び】

これからの介護の在り方

感覚的介護（経験・予想・想像）

×

科学的介護（数値・エビデンス）





結果

導入当初のICT化への強い心理的拒否を完全には払拭できなかった

課題

- 最
- 機器選

もっと全スタッフを
巻き込むべきだった!!!

未来

- スタッフよりスムーズにコミュニケーションを図る
- 活用方法の応用化
- 見守り機器の数値を元に医療機関の連携を図る
- 見守り機器・インカムをココファン他事業所にも導入推進



NTT DATA

株式会社 NTTデータ 経営研究所

Gakken



このロゴは、株式会社NTTデータ経営研究所 情報未来イノベーション本部
先端技術戦略ユニット HealthCare Implementationグループにおいて、
介護現場へのご支援を行う際に使用しています。
グループのビジョン「ヘルスケア・福祉を子どもたちの憧れの職業にする」を達成するため、
「人々の生活を支える縁の下の力持ち」となる私たちの存在をイメージしています。